

## 目 次

研究の背景及び研究のねらい	73
研究の方法	73
研究の内容	73
1 基礎的・基本的な内容の定着状況の把握	73
2 指導上の課題	74
3 授業を改善する観点	75
4 実践事例及び参考事例について	77
< 実践事例 >	
国語 「わたしたちの体について調べよう」	( 小学校 4 年 )・ 78
算数 「あまりのあるわり算」	( 小学校 3 年 )・ 86
< 参考事例 >	
国語 「読んで聞いて見つけよう！様子や気持ちを表す言葉」	( 小学校 3 年 )・ 94
「熟語の成り立ち」	( 小学校 6 年 )・ 96
算数 「1000 までの数」	( 小学校 2 年 )・ 98
「単位量当たりの大きさ」	( 小学校 6 年 )・ 100
研究の成果	102
今後の課題	102
・ 主な参考文献・資料等	102

## 研究の背景及び研究のねらい

平成 14 年 4 月から小・中学校で全面実施となった今回の学習指導要領は、児童・生徒が身に付けるべき学習内容を厳選している。その確実な定着を図るために、教育課程審議会は「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方（答申）」（H12.12.4）において、目標に準拠した評価への転換や指導と評価の一体化、評価方法の工夫等を各学校が行うよう求めている。また、国立教育政策研究所は、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」（H14.2.28）において、評価規準の作成等にかかわる資料を示したり、児童・生徒の学習の定着状況を把握するために、平成 14 年 1 月から 2 月にかけて「教育課程実施状況調査」を実施したりしている。このように、学習指導要領の全面実施に伴い、評価観や評価方法、あるいは学習内容の定着状況の把握などについて、国の取組が盛んに行われてきた。

これらの国の取組に先立って、東京都は「個性豊かで能力に富んだ人材を育成する」ことを政策目標に掲げ、「基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上を図る」ことなどを具体的な内容として示している。このことを受け、東京都教育委員会では平成 13 年度から「基礎的・基本的な内容の定着に関する調査」を実施している。また、東京都教育庁は平成 14 年度の重要施策に「基礎的・基本的な学力の向上」を位置付け、基礎的・基本的な内容の定着に関する調査の継続実施及び、少人数学習集団による指導やティーチング・アシスタントを活用した指導の推進などを進めている。このように、基礎的・基本的な学力の向上を目指して、国や東京都では様々な取組を実施している。

本研究は、平成 14 年 3 月の東京都教育委員会「基礎的・基本的な内容の定着に関する調査 報告書」（以下「報告書」と記す。）を受け、基礎的・基本的な内容が定着する授業の在り方を探り、各学校の指導の改善に資する資料を提示することをねらいとしている。

## 研究の方法

「報告書」を詳細に分析し、国語と算数の基礎的・基本的な内容の定着状況を把握するとともに、学習指導要領の分析から国語や算数の教科の特性及び基礎的・基本的な内容を明らかにした。また、国等の答申や資料、「報告書」に示された都の施策の方向、都内の研究指定校等の研究成果から、指導上の課題や授業を改善する観点を探り、それらを基に単元を構成し検証授業を行った。

検証授業を通して得られた成果を基に、単元構成のモデルを作成するとともに、検証授業を再構成し、実践事例として示した。また、検証授業以外で定着が図られていない内容についての指導例を参考事例として示した。

## 研究の内容

### 1 基礎的・基本的な内容の定着状況の把握

「報告書」では、東京都全体としての基礎的・基本的な内容の定着状況は、国語においては定着が図られており、算数ではおおむね定着が図られているとしているが、詳細な分析を行ったところ、以下のことが分かった。

小学校 4 年と中学校 1 年の学年全体の正答率を比較すると、学年進行に伴い国語の正答率

は上昇し、算数の正答率は低下しているということである。次に、項目や領域ごとに正答率の変化をみると、国語においては「漢字の読み」や「内容理解」で正答率が上昇しているが、「漢字の書き」では低下していること、算数においてはすべての領域で低下していることが分かった。さらに、算数においては、小学校4年・中学校1年ともに「量と測定」や「数量関係」の正答率が「数と計算」や「図形」の正答率を下回ることが分かった。

国語の項目や算数の領域ごとの正答率を分析すると、定着状況は、項目や領域によって異なっているということである。例えば、中学校1年における国語の「漢字の書き」（正答率73.6%）や算数の「数量関係」（正答率65.2%）のように、定着が図られていない内容がある一方、中学校1年における国語の「漢字の読み」（正答率92.8%）や小学校4年における算数の「数と計算」（正答率86.1%）のように定着が図られている内容がある。また、問題ごとの正答率からも、定着状況に違いがあることが分かる。

以上のような学年進行に伴う正答率の変化や、項目及び内容ごとの正答率に違いがあることから、基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、国語や算数の教科の特性を踏まえ、学習内容に応じて指導を工夫していくことが大切であると考えられる。

なお、「報告書」は、東京都全体の児童・生徒の基礎的・基本的な内容の定着状況を平均化して示しており、児童・生徒一人一人の学習の定着状況を示すものではない。「報告書」においては、明確なデータがなく数値で示すことはできないが、児童・生徒一人一人の学習の定着状況が異なることは明らかであり、学習の定着状況に応じて指導を工夫していくことが必要である。

## 2 指導上の課題

学習内容に応じた指導上の課題を導き出すために、まず、学習指導要領の目標や内容を分析し、国語と算数の特性を明らかにすることにした。

### ・国語の特性

国語の目標では、能力や態度が2学年まとめて示されている。このことは、繰り返しの学習を行う中で、目標に示されている能力や態度が次第に身に付いていくという教科の特性を表している。国語の学習は、どの学年においても、言語要素のすべてを含む教材を中心に行われている。授業をはじめ日常の言語生活の中で、国語の力を経験的に身に付けながら言語能力を高めていく教科である。

### ・算数の特性

算数の目標は、能力や態度が学年ごとに示されている。また、学習する数や量、図形といった学習の対象やその範囲などが明確に示されているとともに、系統的に配列されている。このことは、学習内容を確実に積み上げることで、能力や態度が身に付くという特性を示している。算数は、学習内容の確実な定着の上に、その適用範囲を広げたり活用したりしながら新たな学習内容を獲得していく教科である。

次に、小学校学習指導要領や国や東京都が示している各種答申や資料、「報告書」に示された都の施策の方向、都内の研究校における授業観察を基に、指導上の課題やそれらを改善する観点について検討を重ねてきた。検討の過程で、国語においては、「読むこと」と「書く

こと」等の各内容を関連付けて指導することや年間指導計画の中で計画的に指導すること、算数においては系統性を踏まえて指導することや内容に応じて算数的活動を取り入れ、児童主体の学習にすることなどが実際の指導では十分ではないことが課題として挙げられた。

教科の特性や先行研究、指導の実情から、国語と算数における指導上の課題を以下の3点にまとめた。

#### **国語における指導上の課題**

- ・言語事項、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを関連付け、計画的に指導すること
- ・学習内容の定着状況を把握し、次の学習に生かすように学習展開を工夫すること
- ・学習内容を日常で活用しようとする意欲付けや、活用する場面設定をすること

#### **算数における指導上の課題**

- ・学習内容の系統性や学習活動の連続性を踏まえて指導すること
- ・既習事項を活用し問題を解決するなど、児童の主体的な活動を重視した学習を行うこと
- ・学習の目標や内容に応じて算数的活動を取り入れ、実感を伴った理解を促すこと

### 3 授業を改善する観点

指導上の課題を踏まえ、授業を改善するには、教材研究、実態把握、指導と評価の一体化を関連付けて授業を構成し、着実に実践することが必要であると考え。以下のように教材研究、実態把握、指導と評価の一体化を行うことで、授業を改善しようと考えた。

#### <教材研究>

基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、その単元における学習内容のみの教材研究ではなく、その後の発展や既習事項との関連等の系統性についても十分に研究を行う。また、すべての観点別評価の観点から学習内容を分析する。

このように教材研究を行うことは、単元における基礎的・基本的な内容やそれらを支える既習事項、年間指導計画や教科の全体計画における学習内容の位置付け、単元の評価規準が明らかになり、学習内容に合った学習活動の設定や教材の工夫が可能になると考える。

#### <実態把握>

教材研究によって明らかにした単元における基礎的・基本的な内容や、それらを支える既習事項の定着状況を把握する。また、一人一人に応じた指導を実践するために、これから学習する内容についての知識や経験、児童・生徒に合った学習方法等についても把握する。こうした実態把握から、教材や学習活動を工夫していくことが重要であると考え。

なお、実態把握は知識や技能面を中心に行われることが多いが、より詳細に児童・生徒の実態を把握するために、すべての観点別評価の観点から行うことにする。

#### <指導と評価の一体化>

学習の進行に応じて児童・生徒の学習内容の定着状況は変化する。一人一人の学習状況を的確に把握し、それぞれに応じた指導を実践していくために、評価を生かした指導を行っていく。そのために、学習内容を基に単元の指導と評価の計画を立てたり、学習のまとめりとともに評価規準を設定したりして児童・生徒の学習の定着状況を評価し、指導に生かせるようにする。評価を着実にを行うことで、同じ内容を繰り返して指導したり、発展的な学習を行ったりするなど、学習内容の特性や定着状況に応じた指導の手だてを講じたいと考える。

単元構成のモデル

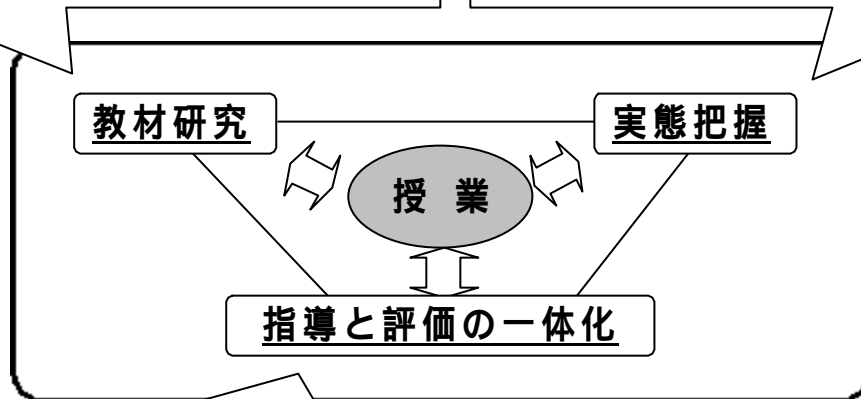
このモデルは、授業を改善する観点のかかわりとその内容を示したものである。検証授業を通して有効性を確認し、作成した。

学習指導要領の目標、内容の分析

- ・ 児童・生徒が身に付ける基礎的・基本的な内容を、すべての観点別評価の観点から明らかにする。
- ・ 教科の全体指導計画や年間指導計画における単元の位置付けや学習内容及び学習活動の系統性を明確にする。
- ・ 学習内容や児童の実態から、繰り返して指導する必要がある基礎的・基本的な内容を明らかにし、学習内容に応じた学習活動を設定したり、教材を工夫したりする。

学習内容の定着状況や学習方法等を、学習する内容との関連から把握

- ・ 学習内容に関連のある既習事項の定着状況をすべての観点別評価の観点からとらえる。  
( $\Delta$ - $\square$ -テスト・意識調査等)
- ・ これから学習内容に関連する知識や考え方、経験等の実態を把握する。  
( $\Delta$ - $\square$ -テスト・質問等)
- ・ 児童・生徒一人一人に合った学習方法を把握する。  
(質問・行動観察等)



指導と評価の一体化

学習の定着状況に応じた指導の手だてを明確にし、評価を生かした指導を実践する。

指導と評価の計画

- ・ 学習内容に応じて、単元の指導と評価の計画を立てる。
  - \* 学習指導要領を分析し、単元の目標や評価規準を設定する。
  - \* 評価の観点を絞り込み、単元全体を通してバランスよく評価する。
- ・ 学習のまとめごとに定着状況の評価し、指導に生かす。
  - \* 児童・生徒の具体的な姿を想定し、具体的評価規準を設定する。
  - \* 学習過程の評価を重視し、学習の定着状況に応じた指導の手だてを明確にする。(学習活動や教材等)
- ・ 学習内容の特性や学習の定着状況に応じた手だてを位置付ける。
  - \* 少人数学習集団による指導、習熟を図るために繰り返して行う指導 等
- ・ 学習の定着状況に応じて計画を見直す。

指導上の工夫

- ・ 体験的・問題解決的な学習を取り入れるとともに、学習内容に応じて学習活動や教材等を工夫する。
- ・ 基礎的・基本的な内容を繰り返し指導する。
  - \* その単元の学習で身に付けるべき内容 (例 言語事項、記号、計算の意味と方法等)
  - \* 年間指導計画や教科の全体計画に合わせて、系統的に指導することで身に付けるべき内容 (例 読解力、表現力、筋道立てで考える力 等)
- ・ 学習内容の特性や、学習内容の定着状況に応じた指導の工夫
  - \* 弾力的な指導時間の設定
  - \* 学習集団の構成 (少人数学習集団 等)
  - \* 少人数学習集団による指導を活用した発展的な学習や補充的な学習の実践 等
- ・ 学習環境の整備
  - \* 学習の場の設定や掲示物の工夫 等

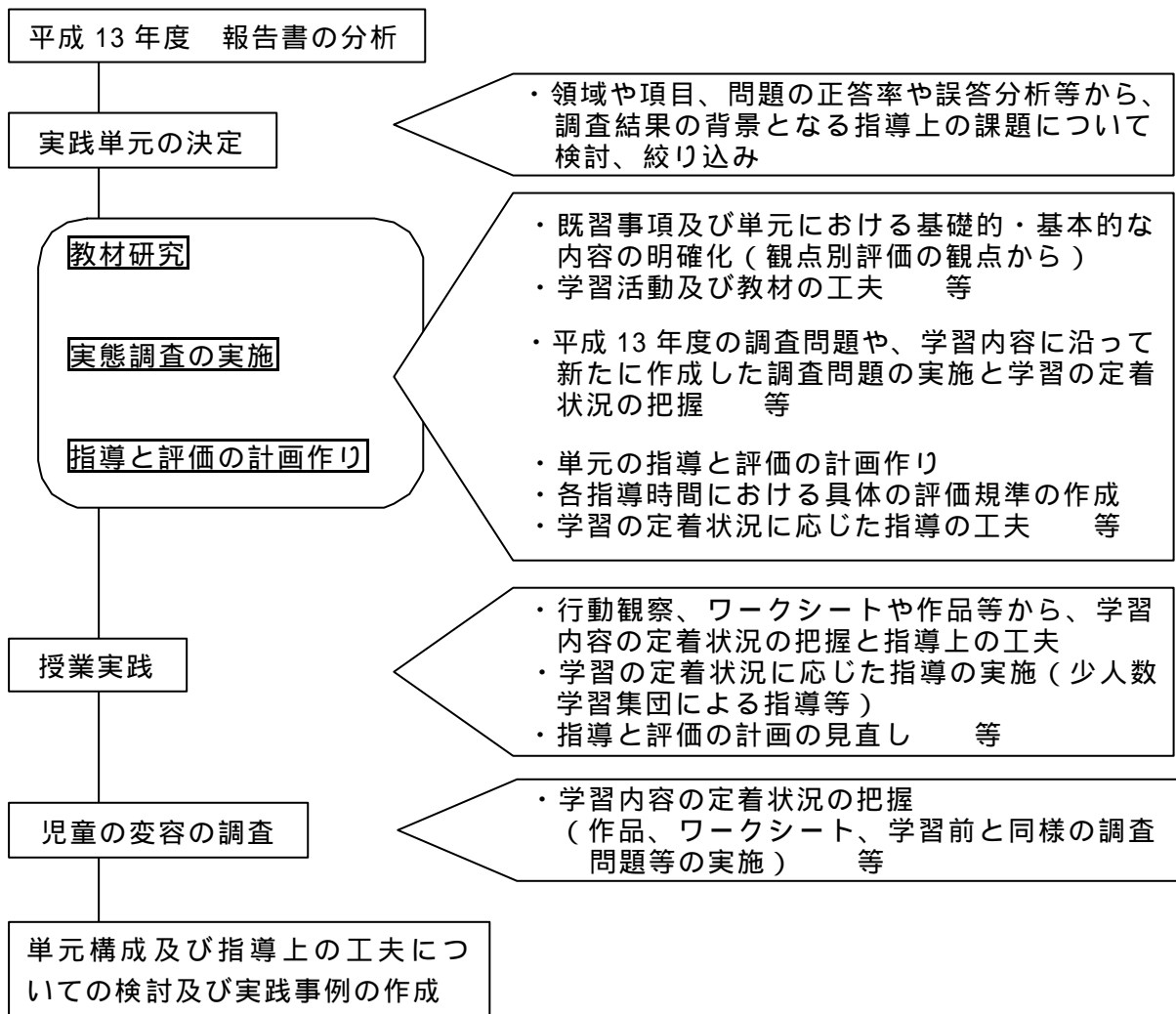
#### 4 実践事例及び参考事例について

##### (1) 実践事例について

###### 実践事例の位置付け

本研究では、平成13年度の調査結果の分析から、国語・算数における指導上の課題をそれぞれ3点に絞り込み、解決のための手だてを探ってきた。次ページから示す実践事例は、教科の特性に合わせて、授業を改善する観点の有効性を探るために行った事例である。なお、実践した単元は、平成13年度の調査結果で定着が図られていない項目や領域、問題にかかわる単元である。また、実践事例は検証授業後の考察を加味して修正したものを掲載している。

###### 実践事例作成までの主な流れと実施内容



##### (2) 参考事例について

参考事例は、実践事例と同様に単元構成のモデルに沿って作成した。取り上げた内容は、「報告書」において定着が図られていない項目や領域に関連のある学習内容である。実践事例や参考事例を活用するにあたっては、児童の実態や指導体制等、各学校の実情に合わせて実践することが望まれる。























































## 研究の成果

### 1 指導と評価の計画

児童・生徒の具体的な姿を想定して評価規準を作成することが大切であり、多様な指導の手だてを指導と評価の計画に位置付けることが重要である。また、評価規準を明確にすることで形成的な評価が可能となり、一人一人に応じた指導が実践できる。

### 2 指導上の工夫

教科の特性や学習内容等に応じて指導形態を組み合わせ、単元を構成することで児童・生徒一人一人の学習状況に応じた指導を実践することができる。また、同じ内容を繰り返して学習するなどの補足的な学習を行うことや、学習内容を活用するなどの発展的な学習を行うことは、基礎的・基本的な内容の定着につながるということが分かった。

児童・生徒の興味・関心や学習の定着状況に応じるには、少人数学習集団による指導を行うことが効果的である。学習内容の定着が図られていない児童・生徒については、教師が学習の進め方を寄り添って確認していくなど、把握した実態に基づき個別指導に重点を置くことが求められる。なお、少人数学習集団による指導を行う際には、学習内容について児童同士が交流し、互いに高め合う活動を取り入れるなどの工夫をすることで、学級全体の定着状況を高めていくことが大切である。また、学習集団を構成する際に、児童・生徒が選択した学習集団と、教師の想定した学習集団が異なった場合、教師は評価を基に指導を行ったり、担当の教師同士が連絡を取り合い指導方針を共有したりする必要がある。

### 今後の課題

- ・教科の特性や学習内容に応じた指導の在り方をさらに追究すること。
- ・各学校がそれぞれの実態に応じて教科の指導計画等を見直し、授業改善に取り組むための資料を作成すること。
- ・少人数学習集団による指導における指導方法や学習課題等についてさらに開発すること。

### 主な参考文献・資料等

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 『小学校学習指導要領解説』総則編 国語編 算数編       | 文部省                       |
| 『新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開』          | 文部省                       |
| 『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』    | 国立教育政策研究所                 |
| 『基礎的・基本的な内容の定着に関する調査 報告書』      | 東京都教育委員会                  |
| 『これからの評価の考え方とその方法（小学校編）』       | 東京都教育庁指導部                 |
| 『少人数学習集団による指導 - 小学校・実践の手引き - 』 | 東京都教育委員会                  |
| 『平成13年度 東京の教育21 研究開発委員会指導資料』   | 東京都教育委員会                  |
| 『基礎・基本の徹底』                     | 上越大学教授 高田喜久司 他 教育開発研究所    |
| 『基礎・基本の徹底と個性を生かす課題選択』          | 伊藤説朗 他 東洋館出版              |
| 『学力向上実践事例集』                    | 国立教育政策研究所 工藤文三編 教育開発研究所   |
| 『小学校教育課程の解説＜国語＞』               | 小森茂 編著 第一法規               |
| 『小学校説明的文章の学習過程をつくる』            | 吉川芳則 明治図書                 |
| 『語句に着目した読み方の指導』                | 国立国語研究所所長 甲斐 睦朗編 明治図書     |
| 『算数科教育の基礎・基本』                  | 算数科授業研究会 明治図書             |
| 『算数の基礎学力をどうとらえるか』              | 中島健三、長崎栄三 他 東洋館出版         |
| 『なぜ「算数的活動」なのか』                 | 東京学芸大学附属世田谷小学校 黒澤俊二 東洋館出版 |